

情報交換会*意見交換まとめ(全体に共有したいことをまとめた内容のものです。)
県南会場(参加者30名 A~Fグループ)

テーマ①「協議体の進め方や内容について」
・協議体のテーマや進行の工夫、活用方法 等

Aグループ

- ・協議体のテーマとして、「高齢者の移動支援」「買い物支援」について話合っている市町が多い。
- ・2層協議体において、まちづくりセンターで移動支援を行うことが決まった。
- ・移動販売による安否確認を行っている。

Eグループ

- ・2層コーディネーターの委嘱先が、地域住民、自治会の集落支援員、復興協議会の方等、市町によって様々だったことが参考になった。
- ・協議体では、1層、2層協議体の情報共有や、課題を抽出する内容で話し合っている。

テーマ②「関係機関との連携について」
・他事業や各種団体、他部局、民間企業との連携 等

Cグループ

- ・民生委員、包括、生活支援Coが一緒になって個別世帯訪問していることが良い取組と思った。

Fグループ

- ・学校関係(福祉教育やボランティア部)、農業、子ども食堂と連携が取れている。
- ・サロン立ち上げで企業が場所を提供してくれて、地域交流につながった。
- ・ケアマネがデイとサロンが被らないようにケアプランを調整している。
- ・町内社福法人で「社会福祉法人連絡会」を年5~6回開催。買い物支援や入浴支援について話し合っている。
- ・移動販売のニーズについて。実際にやってみると、移動販売の利用者が少なかった。

Eグループ

- ・行政、包括、1層・2層コーディネーター、他事業所との連携が多い。
- ・コーディネーターの顔を覚えてもらうためにアウトリーチを多く行っている。

テーマ③「地域資源とのマッチングについて」
・支援ニーズと多様な活動のマッチングの実践 等

Bグループ

- ・新聞屋との連携:見守りの実施。何日か溜まっているとすぐ連絡がくる。
 - ・生協との連携:見守りの実施。宅配の際に何かあると連絡がくる。
 - ・床屋との連携:地域の大変な人が集まる、集いの場になっている。
 - ・学校との連携:福祉体験の実施
 - ・いちご農園との連携
 - ・セブンイレブンの連携:移動販売車で見守り。様子がおかしいと連絡が来る。
 - ・郵便局との連携:何度も通帳を作りにくる方がいると連絡が来る。
- ⇒関係する団体との目線合わせが大切と学んだ。

Dグループ

- ・片づけられない課題に対応するため、思い出の品(こけしや熊の置物)をアート美術館として展示するイベントを実施。町の環境課と繋がり、取組みに至った。
- ・平均70歳のバンド活動グループが敬老の集いで演奏。栄養士会協力のもとラフターヨガも実施。

Fグループ

- ・人とのつながりを広げたい意見が出た。(一人の人に色々役がっている)
- ・男性にフォーカスしたり、すでに動いている人にスポットをあてている。
- ・区長、民生委員、行政とつながりができている。
- ・民生委員との情報交換を月に1回実施。
- ・障害支援専門員のケアマネとつながる。
- ・包括の総合相談に時間持ってもらえるという意見もあった。

テーマ④「今、力を入れて取り組んでいること」
・協議体でこんな取組をしている ・集めた地域資源を一覧にして、関係者に周知している ・今後の展望 等

Aグループ

- ・老人クラブの運動大会に大学生をマッチングしている。
- ・マップづくりに力を入れて取り組んでいる。

Bグループ

- ・たまり場マップを作っている。(マクドナルドとも連携している)
- ・その地域で何が必要か全戸配布アンケートをとっている。
- ・ボランティア向けの研修会等の実施。
- ・住民も2層Coとして活躍している。地域ケア会議を見直すことに力を入れている。
- ・住民を混ぜて、課題をどう解決するかの話し合いに力を入れている。

Cグループ

- ・住民から問い合わせの多い「移動販売」について情報をまとめている。

Dグループ

- ・社協・包括・民生委員とが連携し介護認定受けていない人へ個別訪問している。このアウトリーチを3年続けており、支援が必要な人のサービス利用に繋がった。
- ・フリーマーケット開催。終活としてシニアの方が多数出展した。元気なうちに片付けができた。